

平成 23 年度 第 1 回経営協議会議事録

日 時 平成 23 年 6 月 24 日（金） 14 時 00 分～16 時 05 分

場 所 事務局大会議室

出席者 石川、石村、伊藤、北原、草間、杉田、
伊東、石井、碓氷、柳澤、山崎、浅利、船橋、杉山の各委員

欠席者 川勝、松井の各委員

陪席者 大戸監事、塩田監事
佐藤、太田の各学長補佐

I 前回議事録の承認について

平成 22 年度第 6 回経営協議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 平成 22 年度決算について

山崎委員から、平成 22 年度決算について、資料 1 及び別添「平成 22 事業年度財務諸表等」により説明が、大戸監事から監査報告書について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、山崎委員から、平成 23 年度会計監査法人として、「新日本有限責任監査法人」が引続き、文部科学大臣の選任を受けた旨報告があった。

（意見交換で出された主な意見等）

〔⊕：学外委員の意見等、△：本学側の意見・説明等〕

⊕：受託研究等収益は他の大学と比較してどのような状況にあるか。

△：外部資金全体で比較した場合、本学と同規模の医学部のない総合大学の平均よりは多いが、全国の大学全体の平均より少ない。

⊕：決算報告書の審議に当たっては、事業報告と決算を一体で報告・審議するのが一般的ではないか。

△：事業報告については、資料 3 で詳細を説明させていただきたい。

2 平成 24 年度概算要求について

山崎委員から、平成 22 年度概算要求について、資料 2 により説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

（意見交換で出された主な意見等）

〔⊕：学外委員の意見等、△：本学側の意見・説明等〕

⊕：施設整備費要求事項の改修建物は、耐震基準は満たしているか。

△：基準は満たしている。

⊕：防災研究の高度化（プロジェクト）と放射能汚染検査装置（基盤的設備等整備）が一体となった取組みが機能すれば良いと思う。

- △：大学、県や市などの地方公共団体と連携して科学的な根拠に基づく防災モデルを検討したい。
- ⊕：東日本大震災後に東北大学や福島大学では、新たな災害科学の研究拠点を創設したが、静岡大学はそうした取組みをする予定はないのか。
- △：本学は、既存の防災総合センター及び放射科学研究施設があり、当該センター等の人的・物的体制を強化していく予定である。
- △：「ふじのくに防災フェロー」や「静岡大学防災マイスター制度」等、人材育成や教育にもウエートをおいている。
- ⊕：国際的視野をもってアカデミックで総合的な防災研究を行うことが求められている。

3 平成22事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

浅利委員から、標記報告書について、資料3により全体的な概要の説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(意見交換で出された主な意見等)

[⊕：学外委員の意見等、△：本学側の意見・説明等]

- ⊕：進捗状況に「IV」の評価が多い印象があり、対外的に説明が求められるのではないかと。また、年度計画と実績の内容との関係から、目標設定が適切だったか検討する必要がある。
- △：「IV」と評価した計画は、検討・実行が確実に行われたものであり、対外的に十分説明できると考えている。
- ⊕：科学研究費獲得のため、研究企画室、イノベーション共同研究センターが申請書等作成の支援補助を行う体制を整備していることは評価できる。

III 報告事項

1 平成21年度監事業務監査要望事項に対する改善措置状況について

浅利委員から、平成21年度監事業務監査要望事項に対し、役員会の基本方針に基づき改善に取り組んだ措置状況について、資料4により報告があった。

2 平成22年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について

浅利委員から、標記基本方針について、資料5により報告があった。

3 最近の主なトピックスについて

- (1) 超領域研究推進本部の設置
- (2) 卓越研究者及び若手重点研究者の称号授与
- (3) 科学研究費補助金交付内定状況
- (4) 学生支援センター
- (5) 震災関係の取組み

上記事項について、担当委員から、資料6によりそれぞれ説明があった後、意見交換を行った。

(意見交換で出された主な意見等)

[⊕：学外委員の意見等、△：本学側の意見・説明等]

- ⊕：超領域研究推進本部にアドバイザーとしてメディア関係者等外部の者を招いてはどうか。
- ⊕：卓越研究者及び若手重点研究者について、新聞等で見ることが少ない。積極的に広報活動を行う必要がある。
- △：現在、広報用のパンフレットを作成中である。
- ⊕：科学研究費補助金の申請にあたり、計画調書の効果的な書き方に精通している者にアドバイスを求めるようにしてはどうか。
- △：名誉教授等申請方法に精通している方々の補助を受けている。
- ⊕：科学研究費補助金の申請件数が減少しているが、原因は何か。
- △：前年度までは、大学として申請率の目標を掲げていたが、今年度は特に強調しなかったこと、及び継続型件数の関係もある。
- ⊕：大学が推進している研究について、一般の方々にわかりやすい情報発信を行っていただきたい。

以 上